



国土交通省

はしげたかせつ 大型海上起重機船による海上橋桁架設工事を見学しませんか！ ～ 鹿児島港臨港道路（鴨池中央港区線）～

令和 7 年 7 月 18 日
九州地方整備局
鹿児島港湾・空港整備事務所

※実施時間を変更いたします。

九州地方整備局鹿児島港湾・空港整備事務所では、令和7年7月より約1ヶ月間をかけ、海上にて橋桁（6本）の架設工事を6回に分け実施します。
今回のご案内は、その工事の様子を見学して頂くものです。

1. 実施日時、場所

日 時： 令和7年7月21日（月・祝） 9：30～12：00※

場 所： 鹿児島港 マリンポートかごしま 管理棟

※午前中に工事が終了する見込みとなりました。早めにお越し下さい。

2. 内 容

臨港道路の橋桁を大型海上機重機船にて吊上げ、そのまま海上運搬し、所定の場所に架設する作業を見学できます。

マリンポートかごしまの管理棟では動画等を、外では工事の状況を自由に見ることが出来ます。

管理棟は9：30～15：00まで自由にお入り下さい。

参加申込や受付等は必要ございません。

3. 注意事項

天候等により見学会が中止になる場合もあります。中止等の連絡は当事務所ホームページでお知らせしますので、お出かけ前にはご確認をお願いします。
また、熱中症対策、雨具等も各自でご準備をお願いいたします。



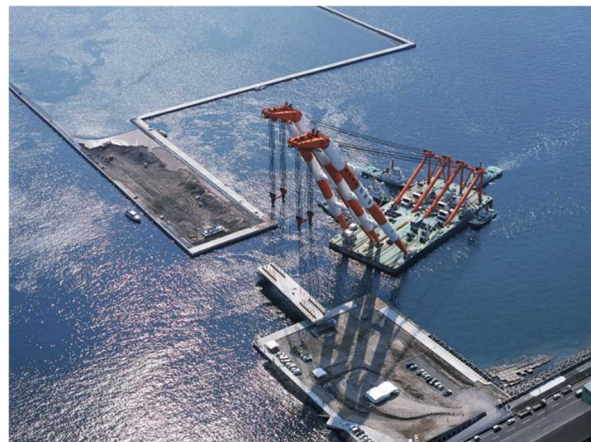
〈問い合わせ先〉

国土交通省 九州地方整備局
鹿児島港湾・空港整備事務所 総務課
TEL：099-223-3296
E-mail：kagoshima-k89re@mlit.go.jp

○ 今回の施工のイメージ



施工場所(6径間に鋼桁架設)



施工イメージ(H18-9月_マリンポート大橋架設時)

使用機械：非航非旋回機重機船『大和』700t吊り

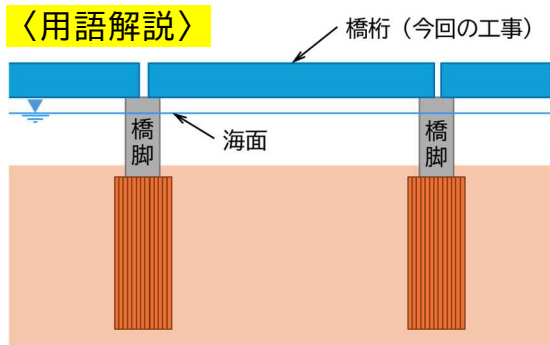
橋桁諸元：構造＝鋼6径間連続合成細幅箱桁

(1桁当り)長さ＝約80m

桁幅＝約8m, 桁高(厚み)＝約3m

重さ＝約530t(仮設物重量込み)

＜用語解説＞



はしげた
橋桁 … 橋脚の上に架けて人や車が通る
箇所のこと。(今回は鋼製)

きょうきやく
橋脚 … 橋の途中に建てて橋桁を支える
柱のこと。(コンクリート製)

かせつ
架設 … 橋脚の上に橋桁を載せること。
今回はクレーンで橋桁を吊上
げ、上から橋脚上に載せます。

○ 橋桁海上架設作業(1日)のタイムスケジュール

(※ 下記タイムスケジュールはあくまで作業計画であり、実際の時間は前後することがございます。)

7:00	現場始動準備	朝礼や作業の安全確認等
7:30	橋桁への玉掛作業	橋桁を吊上げるための準備
8:15	橋桁吊り上げ開始	橋桁を少しだけ吊上げ地面と切離す(地切)
8:45	タッチアップ作業	地面と接していた箇所の塗装仕上げ
9:15	機重機船係留解除	橋桁を高く吊上げ起重機船を陸から離す
10:00	橋桁海上吊り運搬開始	橋桁を吊ったままの状態海上運搬
10:30	機重機船セッティング	橋桁架設場所に機重機船を固定
11:15	橋桁架設	P3-P4 径間に橋桁架設。繊細な作業のため時間 を要します(約3時間)
14:15	据付完了, 係留解除	橋桁の吊具を外し機重機船の固定を解除
16:15	機重機船帰港, 作業終了	機重機船が南港に戻り係留、後片付け

○ 鹿児島港臨港道路整備事業（鴨池中央港区線）とは

本事業は、鹿児島港臨港道路の一部を形成し、港湾物流のボトルネックとなっている鴨池港区から中央港区间に新たな臨港道路整備を行うことで、鹿児島港内の円滑な港湾物流を確保することを目的とし、併せて、市内幹線道路の負担軽減による交通渋滞緩和に寄与する事業です。

【事業概要】

施 設	〔国直轄事業〕 臨港道路 2,400m（2車線）
事業期間	2017(平成 29)年度 ～ 2030(令和 12)年度
事業費	370億円

【事業の効果】

南北に長い鹿児島港では、離島行き定期船が発着する本港区・新港区と、産業が集積し港湾物流の発着点となっている谷山一区・谷山二区との間を貨物車両による相互輸送が行われているが、鹿児島特有の地理的特性から南北間の輸送ルートが限定され、一般車両が多く通行する2本の幹線道路等を利用しなければならず、渋滞等の影響により港湾物流の定時性確保が課題となっています。

また、本港区・新港区には多くの県民や観光客が利用する離島・沖縄行き定期船が発着、中央港区のかごしまクルーズターミナルには外航クルーズ船が多数寄港し多くの外国人観光客が訪れているなか、港から市街地や県内各地への移動、とりわけ鹿児島市街地内の移動時間が課題となっています。

本事業により、湾岸側の港湾物流ネットワーク機能が強化されることで、貨物輸送時間の短縮や貨物車両の輸送時の安全性の向上、人流の円滑化が図られます。

